

28:1 あなたは、イスラエル人の中から、あなたの兄弟アロンとその子、すなわち、アロンとその子のナダブとアビフ、エルアザルとイタマルを、あなたのそばに近づけ、祭司としてわたしに仕えさせよ。

28:2 また、あなたの兄弟アロンのために、栄光と美を表わす聖なる装束を作れ。

28:3 あなたは、わたしが知恵の霊を満たした、心に知恵のある者たちに告げて、彼らにアロンの装束を作らせなければならない。彼を聖別し、わたしのために祭司の務めをさせるためである。

28:4 彼らが作らなければならない装束は次のとおりである。胸当て、エポデ、青服、市松模様の長服、かぶり物、飾り帯。彼らは、あなたの兄弟アロンとその子らに、わたしのために祭司の務めをさせるため、この聖なる装束を作らなければならない。

28:5 それで彼らは、金色や、青色、紫色、緋色の撚り糸、それに亜麻布を受け取らなければならない。

28:6 彼らに金色や、青色、紫色、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布を用い、巧みなわざでエポデを作らせる。

28:7 これにつける二つの肩当てがあって、その両端に、それぞれつけられなければならない。

28:8 エポデの上に結ぶあや織りの帯は、エポデと同じように、同じ材料、すなわち金色や、青色、紫色、緋色の撚り糸、それに撚り糸で織った亜麻布で作る。

28:9 二つのしまめのうを取ったなら、その上にイスラエルの子らの名を刻む。

28:10 その六つの名を一つの石に、残りの六つの名をもう一つの石に、生まれた順に刻む。

28:11 印を彫る宝石細工師の細工で、イスラエルの子らの名を、その二つの石に彫り、それぞれを金のわくにはめ込まなければならない。

28:12 その二つの石をイスラエルの子らの記念の石としてエポデの肩当てにつける。アロンは主の前で、彼らの名を両肩に負い、記念とする。

28:13 あなたは金のわくを作り、

28:14 また、二つの純金の鎖を作り、これを編んで、撚ったひもとし、この撚った鎖を、先のわくに、取りつけなければならない。

幕屋に関する指示が終わり、次にはそこで奉仕をする人についての指示です。神様の働きをするには、設備や建物も重要ですが、人のあり方を忘れてはなりません。教会も同じで、人が整えられて成長せられてこそ、主の働きが進むのです。

大祭司はイエス様の型です。彼らが12部族の名前を刻んで忘れず、とりなしたように、イエス様の私たちの名を、手のひらに刻むようにしてとりなしてください。

また私たちもイエス様を模範にして祭司のように奉仕し、そして伝道します。人々が見て、恵を感じられるようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

